

令和5年度 第1回播磨町地域公共交通活性化協議会 議事概要

|      |  |
|------|--|
| 日 時  | 令和5年7月6日(木) 10時00分～11時50分  |
| 場 所  | 播磨町役場 BC会議室  |
| 出席者  | <p><b>【委員】</b></p> <p>中島 直實(播磨町自治会 南部コミセン区代表)<br/> 尾崎 敏(播磨町自治会 東部コミセン区代表)<br/> 福壽 実(播磨町自治会 西部コミセン区代表)<br/> 伊部 豊昭(播磨町自治会 野添コミセン区代表)<br/> 安川 尚希(播磨町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター)<br/> 富澤 真(播磨町新島連絡協議会 交通部会長)<br/> 米田 隆敏(播磨町商工会 理事)<br/> 新屋敷 昭一((公社)兵庫県バス協会 専務理事)<br/> 梅澤 宏行((一社)兵庫県タクシー協会東播支部)<br/> 日野 真輔(神姫バス(株)加古川営業所 所長)<br/> 山本 記義(神姫バス 労働組合 組織部長)<br/> 田中 京子(代理)(西日本旅客鉄道(株)近畿統括本部兵庫支社 主任)<br/> 伊藤 光一(山陽電気鉄道(株)鉄道事業本部 リーダー)<br/> 平野 祐次(播磨町 副町長)<br/> 中西 克之(国土交通省神戸運輸監理部兵庫陸運部 企画調整官)<br/> 藤澤 伸和(兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所 所長補佐)<br/> 坂上 哲也(播磨町都市基盤部 部長)<br/> 寺谷 智哉(兵庫県加古川警察署交通第一課 課長)<br/> 北川 博巳(近畿大学総合社会学部総合社会学科環境・まちづくり系専攻 准教授)</p> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <p>新田 博史(兵庫県土木部交通政策課 副課長兼地域交通班長)<br/> 佐伯 亮太(播磨町まちづくりアドバイザー)</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>松本 弘毅(企画総務部長)<br/> 筒井 和秀(企画課長)<br/> 野中 照代(企画課公共交通活性化担当課長)<br/> 丸井 直樹(企画課政策調整係主査)</p> <p><b>【町公共交通担当】</b></p> <p>芦澤 千春(都市計画課計画調整係長)<br/> 田中 孝太(都市計画課計画調整係主事)</p> |
| 議事次第 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. あいさつ</li> <li>3. 役員紹介</li> <li>4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画策定の背景・目的及び今後のスケジュールについて</li> </ol> </li> </ol>  |

- (2) 公共交通を取り巻く現状
- (3) 住民アンケート、バス利用実態調査について
- 5. その他
- 6. 閉会

## 1. 開会

## 2. あいさつ

(会長)

本年度は、地域公共交通計画を作ることが一番大きな目標であり、来年度以降にその計画に基づいて、播磨町の交通をいかに活性化させるという大きな仕事待ち構えている。何年か前にコミュニティバスの実証運行に向けた計画を策定したが、残念ながらその時は運行に至らず、今回改めて播磨町の地域公共交通について検討していくこととしている。よろしくをお願いしたい。

## 3. 役員紹介

(事務局)

以降、会長に進行をお願いする。

## 4. 協議事項

(事務局)

資料1 「計画策定の背景・目的及び今後のスケジュールについて」説明

資料2 「公共交通を取り巻く現状」説明

(会長)

何かご質問、ご意見はあるか。

播磨町の地理的なことについては、説明いただいたとおりだと思う。バスの運行便数が大分少なくなっている。高齢化について印象的だったのが、町丁目が高齢化率がかなり違っており、特に50%を超えている地域もある。バス路線と町丁目との関係を見ると、交通空白地となっている所もある。バスだけでは成り立たないし、タクシーだけに委ねるわけにもいかない。外出先としてどういった施設に行っているか、買物など日常生活をどうしているかはこの資料ではわからない。計画を策定する上で、現状と将来を考えた計画づくりを目指すべきだと考える。

(事務局)

資料3 「住民アンケート、バス利用実態調査について」説明

(会長)

何かご質問、ご意見はあるか。

(委員)

西部コミセン区の代表ではあるが居住している二子地区の現状をいうと、住宅が約400戸あり、その内、古くからの集落が地区中心部に150戸ほどある。一つの地区の中でも、昔からある集落と開発された団地があるなど地域構成が違うので、ひとくくりにしてしまうと分析に偏りがでるのではないかと。データ分析の上では、より細かく区域分けして調査したほうが良いのではないかと。

(事務局)

住民アンケートの対象者を大字以外の地域構成を考慮して抽出することは難しい。今後行う意見交換会に色々な世代の方に参加してほしいと思っており、その中で地域性も考慮していきたい。また、民生委員アンケートの実施も考えており、その中で各地域での困りごとなどを聞いていきたい。

(会長)

バス路線ごとの利用状況について、バス路線から遠い人と、近い人といった形で抽出可能か。できれば利用している方のご意見も聞きたいし、交通空白地の方のご意見も聞きたい。

(事務局)

町丁目別の人口構成比で抽出するので、大字ごとで結果が見えれば問題ないとする。

(会長)

今回は町丁目単位の抽出なので、特にバス路線の近くかそうでないかは関係ないということによるか。他に何かあるか。

(委員)

アンケートは2000部(16歳～64歳と65歳以上を各1,000部)と記載されているが、16歳～64歳は57%、65歳以上は27%の割合なので、16歳～64歳を1,250部、65歳以上は750部にしてはどうか。将来的な事業を考えるのであれば、16歳～64歳を対象とした調査数を増やすべきとする。

(事務局)

調査結果は年齢ごとにクロス集計するので、年齢構成の偏りは問題ないとする。

(会長)

他にご意見はあるか。

(委員)

前回の協議会后、当コミセンの地域でも30～80代の方々と公共交通の活性化について話し合いをした。播磨町は交通の利便性は良いが、高齢化が進んでおり、このままでは先細りである。大中遺跡など、観光できる所があっても飲食店が少ない。自身の自治会内では、お茶を飲める所が野添北公園の一箇所のみである。加古川名物のかつめしや播磨町の郷土料理のたこめしがあるのだから、行政がタイアップして、飲食店を3～4店舗作ってほしい。町外から来てもらうのが一番の交通活性化につながると思う。

(会長)

公共交通なので生活交通が主になると思うが、公共交通計画を作っていく上では観光の観点は必要だと思う。住民からすると、家族連れで外出することもあると思うので、将来の外出状況や行きたい所を答える設問などを検討いただいても良いのではないか。

バスの利用状況は、通学で利用してもらえるとかなり変わってくる。また、休日に家族で利用してもらうことなどは、意外と効果的である。特に今回は16歳以上の住民にアンケートを取るので、通学の状況などが分かると思う。

(委員)

資料では、私が住んでいる地域も含め、高齢化率はそれほど高くはない。昔からの集落と、農地が宅地化され新しい住宅地が出来ているので、数値だけ見ると高齢化率はそれほど高くない印象だが、実際はそうではない。北古田1丁目は、私が知る限り昔からの家がほとんどである。

また、公共施設を含め、色々なサービスはどうしても2つの鉄道駅の周辺に展開されているので、町域の東側は東部コミセン以外ほとんど公共施設やサービス系の施設がない。移動手段の確保も含めてご検討いただきたい。

(会長)

地図上でみると、現場の感覚は違うということも大事なことである。その傾向がわかるような分析をお願いしたい。意見交換会もそういった観点を意識しながら開催していただきたい。

(委員)

アンケートについて、65歳以上の方で元気な方はいいが、記載が困難な方はヘルパーやケアマネジャーに代理で書いてもらってはどうか。

(会長)

そのあたりも含めて、きめ細やかな対応をお願いしたい。

(副会長)

アンケートの項目で、「仮にデマンド交通が運行されるようになった場合における利用意向」とあるが、「デマンド交通」とは何か分からない。

(事務局)

定時定路線とは別に、予約を入れて指定された時間に指定された停留所へ送迎する交通サービスのことである。

(副会長)

「④将来における外出状況について」の設問で、「外出先や外出方法が変化するという時期」というのは、何をもって変化というのか。

(事務局)

ご自身のライフステージの変化、という意味で設問を設けている。

(副会長)

先ほどから自治会がおっしゃっている点だが、人口分布が多い地区でも人口密度でみると少ない地区がある。二子地区は特に面積が広く、アンケートを実施する上で人口分布や人口密度を考慮すべきである。

(会長)

二子地区に関してはメッシュの見直しなど、工夫が必要かもしれない。設問については検討いただきたい。

ご意見がたくさん出てきたが、区域割を工夫していただきたいこと、特に設問3と4は答えにくい部分もあるかもしれないので、なるべく答えやすい項目設定について検討をお願いします。

## 5. その他

(会長)

各委員から現状や確認したい事など、ご発言いただけたらと思う。まずは自治会の代表の方から。

(委員)

路線バス利用者の推移について、通勤通学の割合など内訳は分かるのか。

(事務局)

播磨町統計書のデータを利用しているので、利用目的別のデータは不明である。

(会長)

今回の乗降調査でそれを調べるということであろう。そのデータがないと計画策定における戦略を立てられない。本日の資料では、利用者について朝夕は昼より多く、特に朝が多い傾向は如実に出ている。

(委員)

昨年度末の協議会時に他市町の事例を調べるようにとの話があったので調べてみた。デマンドについても、メリットもあればデメリットもある。各市町別に事例をみたが、全ての住民が満足できる施策はなかなか難しい。その中で最大公約数を決める大変さを感じた。

話は変わるが、昨日の神戸新聞の記事で、「兵庫県の斎藤知事が兵庫県庁の本庁舎1・2号館などの解体を26年度に着手、24年度までに移転先などを確保し、25年度に移転を開始する。移転先には県庁舎3号館や生田庁舎、兵庫県公館など近隣の既存施設を「最大限活用」（斎藤知事）。1・2号館には通常2,500人の職員が勤務するが、テレワークなどの「働き方改革」で出勤する職員数を4割程度、およそ1,000人に抑えると、3号館など近隣の施設に収容できると見積もる。ただ業務内容に応じて民間の賃貸オフィスや、現在の県庁舎から離れた場所への移転もありうる」というこ

とである。今後テレワーク勤務が加速していくと、交通事業者も大変になると感じた。私の家族も神戸まで電車で通勤しているが、週の半分は在宅勤務である。新型コロナウイルス感染症がきっかけで定着した働き方であり、全ての仕事が在宅で成り立つわけではないが、ライフスタイルは変わっていくと実感した。

(会長)

播磨町はベッドタウンなので、昼に町内を移動する人が増える可能性があるというアプローチで考えるのも良いかもしれない。家で仕事をすると運動をしないから、ちょっとした移動を補完することも大事になってくるのではないかな。

(委員)

このアンケートについては、本当に住民の気持ちが伝わるアンケートにならないといけないと思うので、先程おっしゃったように、文言ひとつにしてももう少し丁寧にしていただきたい。播磨町に新しく入って来る方がこのアンケートを書きやすく、思いがこもったアンケートにならないと一向に進まないと思う。先ほど二子地区の現状の話をしたが、きめ細やかな計画がうまく進むようにと願う。大変だとは思いますが、きめ細かく、やさしく、思いやりのあるアンケートになればと思う。

(委員)

野添コミセン地区は自治会が20あり、播磨町の中でも自治会数が一番多い地域である。蓮池小学校でイベントを実施するなど、人が集まり、地域が活性化するための取組をおこなっているが、とにかく高齢者や子どもを第一に考えて行動し、皆が集まった時に話を聞きながら、次の世代の人を育ててほしい。

(委員)

地域で話を聞く機会もあるが、具体的には町西部の古田地区では買い物ができる店舗が少なく、店に行くまでが大変だという話を聞くことがある。民間の戸別配送の仕組みを紹介するが、それだけではなく、実際に店で見て選ぶのが楽しいなど、家の中で待っているよりは、外出することが、社会参加という視点から見てもフレイルの予防につながると考える。日常的に利用しやすい移動手段の確保が求められる。資料の中に、タクシー券についての記載があり、交付率は約7割で、配布される枚数が限られており、病院に行く機会が月に3~4回ある方からすると、足りなくなるという声もある。一方で全く使わないという方もいる。利用しない方があらかじめわかるのであれば、条件を満たした方に追加で発行するなど有効に利用できないかというご意見も頂いた。

(会長)

新型コロナウイルス感染症で高齢者はかなり外出を控えていた。フレイル予防という観点からも外出を促すことはとても大事な話になっている。新たな答えを播磨町の中で見つけて、いかに取り入れるかが重要である。それは調査しただけでは見えてこないなので、アイディア勝負になるが、そういう視点でご意見をいただきたい。

(委員)

地元の商工業者も従業員の確保に苦慮されている事業所が増えているのが実情で、例えば65歳以上でも現役の方が増えている。先ほども、日中の人口が多いという話があったが、ある程度の従業員を抱えている事業所の意見もいただけると、良い計画になると考える。

(会長)

バス事業者の現状を教えてください。

(委員)

県下のバス業界の状況は、新型コロナウイルス感染症の影響でテレワークや大学でのオンライン授業により利用者は減少し、現在はコロナ禍前の8～9割程度までしか戻っていない。貸切バスについても、個人旅行は少しずつ戻ってきているが、以前のような団体旅行は戻っていない。また、業界には乗務員不足という大きな問題がある。それに加えて特に運送事業者については、労働時間の規制という2024年問題がある。公共交通に限ると、需要はあるが乗務員不足や労働時間の関係で減便せざるを得ない。

今回の計画策定にあたり、これらの問題を踏まえてバス事業者の意見をくみ取っていただきたい。

(委員)

タクシーもバスと同様で、乗務員が減少しており、土山駅においても以前の半分くらいしか車が待機していない状況である。利用者の方にはご迷惑をおかけしているので、コミバスやデマンドでお助けいただけたらと思うが、あまり便利な交通モードを作られると、タクシーの利用者がなくなってしまうので、どちらも生き残れるような形でお願いしたい。なるべく播磨町の要望に応えられるような形で考えていきたい。

(委員)

バス事業者の乗務員不足については非常に困窮している。これについてはバスに限ったことではないし、根本は少子高齢化など政策的な問題と考える。限りある資源を活用して公共交通を守っていかなくてはならない。今回のアンケートで、どこに行きたいのか、どういった需要があるのか、バスが走っていない所にお住まいの方も公共交通が走ることによって需要があるのかなど、参考になるのではと考える。

町内に外出の目的地を作ることひとつだと思う。バスを利用するには健康を維持することが大事で、町にとっても病院代や保険料などを抑制できるというメリットもある。健康な社会・まちをつくり、人口を増やしていくなど、10年、20年後を見据えた総合的な社会の仕組みづくりが必要だが、その一助になればと思う。

(委員)

播磨町の公共交通の満足度が2.6とあるが、これを今後どのようにしていくか。近隣市町の満足度の把握はされているのか。

(事務局)

正確な数字は持ち合わせていないが、近隣市町においても公共交通に関する満足度は低い方である

と認識している。

(委員)

可能であれば近隣市町と連携を取り、少し離れた市町とも情報交換していただき、吸収できるところはしっかりと吸収して、今後の発展に繋げていただきたい。

(会長)

明石市や加古川市、稲美町など、周辺市町の様子を見ることや連携することは大事である。

(委員)

JR 土山駅の 2022 年度の乗車人数は前年度比 105%だが、コロナ禍前の 2019 年を基準とすると、まだ 9 割程であり、完全に戻っているとは言えない。土山駅だけではなく、他の駅も同様の数値である。JR 西日本としては 7 月 1 日から兵庫県と一緒に「兵庫デスティネーションキャンペーン」を行っている。神戸、姫路など兵庫県内を鉄道で旅行していただきたいというキャンペーンである。生活交通に特化した話題ではないが、少しでも足を延ばしていただく、外出を促すという所で貢献できればと考える。

(委員)

山陽電鉄は神戸・明石～姫路にかけて播磨町から町外エリアへの輸送を担っている。地域公共交通計画を各自治体で策定されているところだが、特に準大手私鉄である弊社の課題としては、高齢化の進行による人口減少社会の到来により、鉄道事業が先細りしていくことが明らかであるということ。新型コロナウイルス感染症の流行により 10～20 年後に起こるであろうと言われていた需要の減少が既に起こりはじめており、鉄道の収支はより厳しくなった。一旦立ち直ったものの、完全には戻っていない状況で危機感を持っている。公共交通を充実させていくことも重要だが、他の自治体の事例をみると、バスやタクシーだけでなく、バスと鉄道のハイブリットの仕組みや、複数の自治体が連携した計画やコミュニティ交通もある。今後は公共交通の一部としての役割に鉄道も組みこまれていくと考える。現在、各市町の協議会に参画させていただいており、今回の計画策定についても、ヒアリングなど協力できる場所で取り組んでいきたい。

(会長)

各事業者の公共交通の維持と活性化の話ではあるが、環境政策も大事なことで、そういった意識も入れながら考えていきたい。

(委員)

交通安全の関係で、7 月 15 日～24 日まで夏の交通事故防止運動期間である。車両の事故原因として、安全運転義務違反が多い。これからますます暑くなるので、体調管理をしていただき、事故防止に努めていただきたい。

(委員)

先ほど委員より住民の思いが伝わるようなアンケートをという話があった。地域の公共交通が使い



やすくなれば、ひいては播磨町で気持ちよく住んでいける事に繋がると思う。アンケートで足りない部分は、意見交換会で出来る限り声を聞いていただき、より良い計画を作って頂きたい。

(委員)

今日参加させていただいて感じたことは、アンケートの内容が重要だということ。どの設問がどう反映されるのか、統計として偏りのないアンケートにしていきたい。住民や交通事業者の意見を聞きながら、色々な視点の意見が必要だと感じた。

(オブザーバー)

兵庫県内は広いので地域性があり、高齢化の進展などそれぞれの実情を踏まえる中で、交通空白地の解消に向けてデマンド交通の導入など色々な工夫をされている自治体も多い。播磨町は市街化区域が多く、公共交通が充実している地域であり、計画も既存の公共交通を活用することになると思うが、高齢化による免許返納が増え、路線のない空白地について調査を行う中で地域の実情を把握して反映していきたい。

(オブザーバー)

普段は自治会の支援などをさせていただいている。週1回、コミセンを周りながら住民の皆さんと話す中で、交通に関する話題は色々な所でされている。狭い町域ながら地域差があると感じている。

アンケートの後に開催する意見交換会の進行を私がする予定だが、課題のことばかり話をしていても先に進まないと思うので、どういった移動の在り方がよいのか、どうなったら皆さんの満足度が上がるかという観点から話をしていくと良いのではないかと考える。そのためには生活者目線の現状を話していただくことも大事だが、これからの時代、どんな交通モード、移動手段があるかを学んでいく必要がある。そういったことをインプットしながら話せる場を作りたい。行政だけで作るのではなく、共に作る地域交通が出来ればと思う。

(委員)

住民目線からすると高齢化の問題があり、交通弱者が増えることが目に見えている。一方、すべてを網羅した公共交通を作ろうとすると乗務員の不足や路線バス、タクシーとの共存など、様々な問題が出てくる。最終的に行政としては財政面の調整をさせていただくことも必要になる。バランスの良い施策、効率的な公共交通が求められる。今後、より詳細なアンケートを行っていくが、この協議会はたくさんの方がおられ、方向性を決める良い場だと思う。皆さんのご意見を聞きながら行政として進めていきたい。

(委員)

今年度は計画を作ることを命題として取り組んでいる。色々なご意見、アンケート結果を踏まえてどういった着地点に持って行くのか非常に難しい課題だと思う。ただ、きめ細やかでわかりやすいアンケートを取ることによって、住民の方がどのようなことを望んでいるのかが分かる。また、意見交換会や民生委員の方の意見を通して、次年度以降、施策としてどのように展開するかも考えながら取り組んでいきたい。

(副会長)

我々企業としても、人材採用に苦慮している。今年度も募集をかけているが、募集人員の20～30%しか獲得できていない状況である。交通面で言うと、例えばJRや山陽電鉄の駅からどうすれば短時間で職場まで行けるかという視点で企業は考える。私の会社でも送迎バスを用意しているという事で、企業は待たないで、公共交通にとっては不都合な状況になりそうなのである。

私が生まれ育った福岡はバス天国である。バスレーンも充実しており、渋滞している中でもバスは動いている。播磨町でも駅から新島までバスレーンで移動できれば、移動時間が短くて良いと思う。行政的に可能性があれば検討してみてもどうか。この会議の着地点はわからないが、宅配便のラストワンマイル問題と同じと受け止めている。細かい所までなかなか行き届かないところに何が出来るかを考えないといけない。幸いにも播磨町は面積が小さく、人口密度が高いので取組みやすく、効率の良いやり方が検討できると思う。

(会長)

様々な主体のご意見の調整が大変だと思うが、最適解をどう考えるか。この協議会がそういった集まりになれば良いと思う。

本日の議題は以上である。事務局にお返しする。

## 6. 閉会

(事務局)

本日のご意見を踏まえて事務局でアンケートや意見交換会、事業者へのヒアリングなどに向けて調整していく。次回は11月頃を予定している。

本日の議事内容については皆様にご確認いただき、ホームページで公開させていただく。

以上